

事業者名：

[illegible]

別紙：仕訳帳の書き方ガイド

1. 仕訳帳とは

仕訳帳は、日々発生する取引を、発生順に「借方」「貸方」に分けて記録する帳簿です。複式簿記の出発点となる帳簿で、ここに記帳した内容を勘定科目ごとに転記したものが総勘定元帳です。

2. 借方・貸方の一致（貸借平均の原理）

複式簿記では、1件の取引につき、借方に記入する金額の合計と、貸方に記入する金額の合計は必ず一致します。これを「貸借平均の原理」と呼びます。本テンプレートの Excel 版には、この一致を自動でチェックする列を用意しています。一致していない場合は入力ミスの可能性が高いため、金額や科目を見直してください。

3. 総勘定元帳への転記

仕訳帳に記帳した取引は、該当する勘定科目の総勘定元帳に転記します。例えば「現金 200,000 / 売上高 200,000」という仕訳は、現金の総勘定元帳の借方に 200,000 円、売上高の総勘定元帳の貸方に 200,000 円を、それぞれ記入します。

4. 55 万円・65 万円の青色申告特別控除との関係

国税庁タックスアンサー No.2072 によると、55 万円・65 万円の青色申告特別控除を受けるには、複式簿記による記帳（仕訳帳・総勘定元帳の備付けを含む）と貸借対照表・損益計算書の添付が必要です（2026-09-04 時点で確認）。

本書は一般的な情報提供を目的とするテンプレートです。税務・会計上の助言を構成するものではありません。

1 件の取引につき、借方金額の合計と貸方金額の合計は必ず一致します（複式簿記の貸借平均の原理）。